

## 会 議 録

1. 会議の名称 第74回熊取町原子力問題対策協議会
2. 開催日時 令和6年7月30日（火）午後1時30分から
3. 開催場所 熊取町役場北館3階大会議室
4. 議題  
案件（1）役員選出について  
案件（2）京都大学複合原子力科学研究所の現状報告（定例報告）について  
案件（3）京都大学複合原子力科学研究所の現状報告について  
案件（4）原子燃料工業株式会社熊取事業所の現状報告について  
案件（5）その他
5. 公開・非公開の別 全部公開
6. 傍聴者数 0人
7. 審議等の概要  
案件（1）役員選出について  
不在となっていた委員長1名、副委員長2名について、委員の互選により委員長には自治会連合会会長・大久保区長の西野洋委員が、副委員長には熊取町議会副議長の田中圭介委員・副町長の南和仁委員が選出された。  
  
案件（2）京都大学複合原子力科学研究所の現状報告（定例報告）について  
・各担当者から配付資料に基づき、原子炉の運転状況、令和6年度の共同利用研究等の採択状況、環境放射能の測定結果について、事項毎に次のとおり説明があり、質疑を経て了承されました。  
【説明内容】  
○報告対象期間の令和5年6月1日から令和6年5月31日におけるKUR・KUCAの運転報告  
○令和5年度の共同利用研究及び専門研究会の採択状況の報告  
○環境放射線測定報告として令和4年4月から令和5年3月における研究所からの排気及び排水中の放射能の測定結果、次に研究所敷地境界付近5ヶ所と所外4ヶ所の放射線量の測定結果、最後に研究所周辺環境試料中の放射能の測定結果について、周辺の環境に影響を与えることは無かった旨の報告。

**【質疑】**

(中島委員)

BNC Tにおける犬や猫のガン対応についての進捗状況はいかがですか。

(黒崎所長)

犬や猫に照射しているようなことは聞いておりませんが、大阪公立大学獣医学部と連携して共同研究しているということは聞いております。それと、少し話がずれるかもしれませんが、ペットに放射線を当てると、そのペットは状態が良くなるんですが、良くなったペットを放射線管理区域から外に出せなくなるといった法律上の縛りがあり、ペットの放射線による病気治療を普及させるには法律の改正も必要となる議論もあって、そういった対応は我々の範疇から外れてしまうんですが、広い意味ではそういったところも見据えながら研究を進めている状況です。

(中島委員)

大阪公立大学獣医学部との連携はどちらの部署でされていますか。

(黒崎所長)

当研究所の鈴木実教授が中心となって共同利用とかそういった形でやられていると思います。今日配布している資料でも共同利用一覧のところの4ページに伴侶動物に対するBNC T適応拡大に向けた基礎研究という形で大阪公立大学や名古屋大学と共同利用研究が行われています。

案件(3) 京都大学複合原子力科学研究所の現状報告について

・京都大学各担当者から配付資料に基づき、次のとおり説明が行われ、質疑を経て了承されました。

**【説明内容】**

1. 京都大学研究用原子炉(KUR)及び京都大学臨界集合体実験装置(KUCA)の状況等について

①KUR及びKUCAの利用等について

令和5年度のKUR(kyoto University Research Reactor)、KUCA(Kyoutoy University Critical assembly)及び他の放射線施設等の利用については、全国126の大学、研究機関等から延べ3,464人・日の研究者・学生が来所し、共同利用等に係る実験・研究が行われた。

令和6年度のKURは、令和6年7月23日から令和7年2月6日までの間、利用運転を行う予定。また、KUCAは、低濃縮燃料での運転切り替えのため、令和3年7月末から運転を休止している。

②KUCA燃料の低濃縮化の状況について

平成28年の核セキュリティ・サミットにて日米合意されたKUCAの低濃縮化については、現在、最初の低濃縮ウラン燃料の搬入等に向け、国内外の関係機関と調整のうえ、準備を進めている。

搬入後は、使用前事業者検査、利用運転に必要な許認可手続き等を経て、令和6年度中には低濃縮燃料により運転を開始し、引き続き、原子炉物理等の基礎研究や国内外の学生を対象とした実験教育・人材育成を行っていく。

## 2. 令和5年度の原子力規制検査の状況について

令和5年度の原子力規制委員会による原子力規制検査が第1四半期分から第4四半期分が実施され、特に指摘事項等の問題となることは無かった。

## 3. 第一研究棟のリノベーションについて

令和3年7月の本協議会で報告した総合研究棟の改修・増築について、昨年7月の本協議会で第二研究棟新営工事の竣工を報告したが、この度、令和6年3月末に第一研究棟のリノベーション工事が竣工し、全工程が完了した。

第一研究棟のリノベーションでは、所外の研究者も利用できるレンタルラボやアクティブラーニングスペースの整備を行うなど、研究教育環境の更なる充実を図っている。

今後、KURの停止後も見据え、本研究所の他の実験施設とともに本総合研究棟（第一・第二研究棟）を活用し、熊取キャンパスにて原子力・放射線を利用した独創的・先端的な複合原子力科学の研究教育を一層推進していく。

## 4. 京都大学研究用原子炉（KUR）の熱交換器からの2次冷却水（非放射性）の漏水について

令和6年7月25日（木）の午後6時26分頃、原子炉当直者によるKUR運転終了後の巡視点検中に、KURの熱交換器室（放射線管理区域内）に設置されている3基の熱交換器（図1）のうち、1基からの漏水を発見した。漏水箇所は資料図に示す1次冷却水と2次冷却水とを分離する管板の2次冷却水側の接合面（ゴム製パッキンを介して接合）であることを確認した。その後、念のため漏れた水を回収し放射能測定を行った結果、放射性物質は含まれていなかったため、今回漏水したものは2次冷却水（水道水を使用）であることを再確認でき、本事象による環境への影響は無く、他の原子炉施設への影響もないと判断した。また、発見時の漏水は3秒に1滴程度であったため、全漏水量を200 mlと推定した。

漏水箇所の観察をしたところ、前述の水密を維持するためのゴム製パッキンの一部がはみ出していたことから、今回の漏水の原因は

ゴム製パッキンの不具合と考えている。今後、当面の間（約1か月間）は利用運転を中止し、詳細な漏水の原因調査を行うとともに、復旧作業や再発防止に取り組んでいく。

**【質疑】**

（渡辺顧問）

報告いただきました先般発生した漏水のあった件ですが、NHKの方が先にニュースで流れたみたいなので、私達も報告を聞いてなかったもので、びっくりしたんですが、放射性物質は含まれていないということで問題はなかったという風には理解させていただいているんですが、情報提供の在り方につきまして教えて頂きたい点と、それと原因について調査しているとのことですが、ゴム製パッキンの不具合という風に資料には書いてありますが、パッキンというのは使っている年数が立てば不具合が起きるかと思うのでそういうところの検査の状態とか教えてください。

（黒崎所長）

情報の提供の話をしていただきますが、本事象が発生したのは夕方6時半ぐらいに発見し、その後関係各所にFAXを入れさせていただいています。そこから先どうNHKの記者さんがその情報を手に入れたかは存じ上げませんが、結果的には次の日の朝のNHKのニュースで報道されたということでありまして。我々として今後出来ることは、より早く関係各所に通知するということを徹底するしかないので、そこにつきましてはこれまで以上にやっていきたいと思っているところがあります。NHKさんの報道については、なぜ報道がなされたか分からないといったところです。

（三澤副所長）

少し補足させていただきますが、19時40何分だったとおもいますが、関係各所、消防署や熊取町役場、大阪府等へ第一報のFAXを入れまして、電話でも連絡を入れさせていただきました。その後20時何分だったか第二報ということで、その時点でわかる範囲の情報を再度FAXを入れまして、電話連絡をさせていただきました。その後、NHKからは9時半頃に電話がかかってきて、私が対応したのですが、状況を説明して、その後11時半頃、明日の朝のニュースで放送しますとの連絡がありました。NHKの報道の内容につきましては、ほとんどの内容はFAXで関係各所に連絡した内容の範囲内のものでありまして。NHKの情報は私が電話で説明させていただいた内容でありました。今回夜遅かったということで、委員の皆様方に連絡することができなかったということはお詫びしたいと思いますが、一応連絡通報体制といたしましては我々の通常の連絡体制として第一報と第二報を入れさせていただいたというところでございます。

(堀研究炉部長)

ゴムパッキンの劣化状況の確認についてですが、3年に一回分解点検をする際に交換しています。今回漏水があったNo.1の熱交換器のパッキン交換は2年前に行っています。これまでの実績から考えて3年では劣化は始まっていなかったのですが、このパッキンの不具合というのは、パッキンの取付時の締め付け方の問題でパッキンがずれた状況的に考えられますので、パッキンの取付方法や締め付け方法といったところで改善の余地があるかもしれないと考えております。

(渡辺顧問)

わかりました。マスコミの方が先に報道されてしまったところで、京都大学さんとすれば情報はすぐに連絡してくれていたところと思いますが、その辺のところの誤差というのかあったのですが、今後またそういうところは、また検討していただきたいと思います。

それと、パッキンにつきましては劣化ではないということでしたので、締め付けの仕方、取付の仕方といったところ、またしっかりと取り組んでいただきますようお願いしたいと思います。

もう一点だけ、KUCAの燃料の件ですが、低濃縮ウランが今年度中には搬入されるということですが、量とかは言えないと思いますが、安全にちゃんとした警備体制で搬入されますように、その辺のところの注意を宜しくお願いしたいと思います。

(三澤副所長)

トータルの搬入量はそこそこあるんですが、何回かに分けて少しずつ搬入するというので、今回第一段として極少量で1回原子炉が作れるぐらいの量の燃料を搬入するというので計画しております。搬入につきましては、国、警察等も含めてもう既に運搬方法についての打合せは開始しておりますので、問題が起こらないようにきちんと対処して参りたいと考えています。

先程FAXの時刻ちょっといい加減なことを言いましたが、正確に言いますと第一報が19時45分に、第二報は20時37分に入れさせていただいております。第一報が事象発見から1時間20分ほどと若干遅いとお叱りの言葉も頂いたところでございますが、我々としてはだいぶ頑張って早くお伝えしたつもりでしたが、夕方であったと言いつい訳になってしまいますが、しっかりと遅滞無きよう連絡するようにしたいと思います。

案件(3) 原子燃料工業株式会社熊取事業所の現状報告について  
・原子燃料工業株式会社熊取事業所各担当者から配付資料に基づき、次のとおり説明が行われ、質疑等は無く了承されました。

【説明内容】

1、原子力規制検査等の状況について(令和6年3月～令和6年7月)

原子力規制庁による日常検査、チーム検査及び定期事業者検査の報告、短期通告無作為査察、棚卸査察、設計情報検認、核物質防護活動確認を受け、結果としていずれの検査・査察においても違反・指摘事項はなかった。

## 2. 環境放射線モニタリング結果について

令和5年上期から令和5年度下期における当事業所加工施設からの放出放射線、外部放射線に係る実効線量、環境試料中の放射能について問題となる数値はなかった。

## 3. 通報事象について

①令和6年5月21日に第2加工棟負圧警報吹鳴事象が発生。負圧を保っている第2加工棟の内部扉を開けた状態で外部扉を開けたことにより、正圧にはなっていないものの警報設定値を越えたため警報が発報したもので、速やかに外部扉を閉じた結果、同日9時36分に正常値にもどる。警報発報時は、当該部屋での核燃料物質の取扱いはなく、本事象による事業所内外の環境への影響や作業員の被ばくもない旨確認している。

②令和6年6月11日昼休憩中に事務所で当社社員が体調不良を訴えたため、12時23分に救急車の出動を要請。本事象による事業所内外の環境への影響や作業員の被ばくもない旨確認している。

## 4. 生産状況について

令和6年1月15日から製品の生産を再開し、計画に基づき生産を継続している。本年度は100体程度の加工を計画しており、生産再開後の初燃料出荷は年内を予定している。今後も安全を最優先に手順の確認を十分に行い、トラブルの無いよう注意深く操業を進めていく。

## 5. 原子力事業者防災業務計画に関する状況について（令和6年3月～令和6年7月）

①原子力事業者防災業務計画の見直しは特になし。

②原子力事業者防災業務計画及び保安規定等に基づく防災訓練として、令和6年11月26日に総合防災訓練を実施予定。今年度、原子力規制庁では各地区で複数施設同時発災を想定した訓練が計画されており、熊取地区では3施設（京大、近大、原燃工熊取事業所）の同時発災を想定した訓練を予定。現在、訓練の詳細を3施設で詰めている。

## 6. 広報活動の状況について

①事業所見学実績ですが、熊取事業所は、地元の皆様をはじめ広く

一般の皆様にご理解を得るための広報活動として、工場見学を中心に活動を行っている。令和5年度までは工場見学の受入れを休止していたが、令和6年度からは徐々に再開していく方向で、一般見学会を6年ぶりに令和6年4月6日に開催し、56名の方に工場見学頂いた。

②令和6年11月安全文化評議会を予定し、評議員の皆様が生産状況や安全文化育成活動等を説明予定。

③令和6年5月26日に開催された熊取町商工会40周年記念事業「クマトリ未来への地図」に出展をし、放射線を扱う事業者として身近にある放射線を紹介するため、食品や石などを放射線測定するコーナーやクイズコーナーを設け、多くの方に参加頂いた。

④ソーシャルメディアを利用した広報活動として、LINEにより新規制基準対応工事の状況や一般見学会等行事のお知らせを情報発信。現在のお友達登録は145人との報告あり。

#### 案件（4）その他

（中島委員）

オフサイトセンターはどのような役割をされているのか、先ほどの原燃さんの防災訓練の説明の中で3施設とありましたが京大と原燃ともう一箇所はどこかお聞きしたいのですが。

（篠川原子力規制事務所副所長）

熊取町では京都大学の横にオフサイトセンターがあり、京大のKUR、KUCA、原子燃料工業で原子力事故が起きた時の対策拠点を取るために設けられています。もう一つ東大阪にありまして、東大阪にある近畿大学に原子炉があり、その事故への対策拠点を取るためのものです。あと一箇所、現状でまだ未完成ですが大阪府庁になります。熊取と東大阪でものすごい地震や津波で全部やられてしまったが、大阪府庁は何とか機能しているという場合に代替できるよう整備を進めているところです。

（中島委員）

確認しますが、オフサイトセンターは事故が起きた時の対処の方法やその後の処理していくところですか。それと、熊取町で3施設訓練するところがあるということですが、京大、原燃以外でもう一箇所はどこでしょうか。

（原子燃料工業吉田環境安全部長）

原子燃料工業の吉田からお答えさせていただきます。弊社資料で熊取地区で3施設と誤解を生むような記載で申し訳ございませんが、熊取地区では原燃工と京都大学さんでございまして、大阪地区で考えますと、あと近畿大学さんがございまして。書き方が悪くて申し訳なかったですが、熊取では2施設でございまして、大阪では3施設でございまして、この3施設の同時発災を想定した訓練を行う

ということが今計画されているということでございます。

(中島委員)

わかりました。2施設ということですね。それとオフサイトセンターの件ですが、事故が起こったとき、それとも警報関係をされるわけですか。例えばこういう放射能漏れが出て、これは限界値を超えているので皆さんに通報し緊急避難を促すとかいうこともされるわけですか。

(篠川原子力規制事務所副所長)

事故が起きた時はオフサイトセンターの中に対策協議会が緊急に出来上がり、その中で住民への非難の呼びかけや屋内退避をしてもらうかの検討や、避難であればどの範囲を指定するかといった判断をすることになります。

(中島委員)

オフサイトセンターの職員の方は、大阪府の職員の方が来ておられるのか。

(篠川原子力規制事務所副所長)

原子力規制庁の職員が詰めております。

(中島委員)

原子力規制庁の方からですか。原燃さんの報告にもありましたが、原子力規制庁に検査してもらったとありましたが、オフサイトセンターは関係ないんですか。事故が起こった時にということですか。常に維持管理とかそういったところには携わっていないということですね。

(篠川原子力規制事務所副所長)

一つ手前のところで何に携わっていないとおっしゃられたのかちょっと聞こえなかったんですが。

(中島委員)

ちょっと歯車がかみ合いませんが、先程から報告があった水漏れの件や負圧警報の件とかいうことに対して、オフサイトセンターはまるっきり関係がないかどうかを聞いているんです。

(篠川原子力規制事務所副所長)

もちろん検査をしております。

(中島委員)

規制庁としての検査をされているということですか。

(篠川原子力規制事務所副所長)

もちろん普段はそうです。

(中島委員)

わかりました。規制庁の人がきて原子力施設を管理してるということですね。

(篠川原子力規制事務所副所長)

管理というか、規制検査をやっているということです。

(中島委員)  
わかりました。

8. 審議会の情報

名称	熊取町原子力問題対策協議会
根拠法令等	原子力問題対策協議会条例
設置期間	昭和47年10月28日から
所掌事務	本町に設置された原子力施設の平和利用と安全性の確保を図るため、必要な調査及び審議を行い、関係機関に意見を具申する。
委員数	17名

9. 担当課

環境課